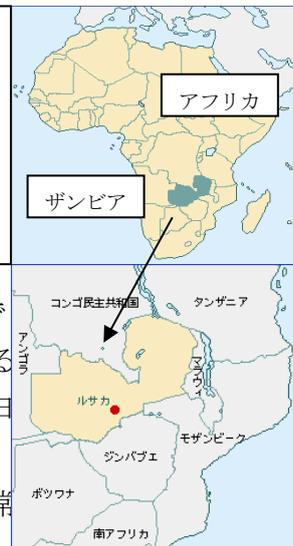


認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 113 号 (R2.12.20)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 12月、師走となりましたが、いつもの師走とかなり異なる様相ですね。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いて、亡くなる方も増えているため、広域の移動をどうするか、年末年始の帰省や初詣をどうするかなど、毎日報道機関が大きくニュースを伝えています。

正直、感染者の対応、調査を行う各機関をはじめ、特に医療機関の負担が非常に大きくなっており、このままではどうなるのかとても困惑しています。

とりあえず、私たち一人一人としてはできることをやっていくしかありませんね。何はともあれ、人と会う際のマスク、頻回の手洗いを基本に、感染予防対策に取り組みましょうね。

さて、今回のニュースでは、11月30日に行われました社会貢献支援財団受賞記念式典についてと、ザンビアから帰国された山元香代子先生からの報告をお届けします。

この一年の皆様のご支援に心から感謝申し上げますと共に、来る2021年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げます。

第55回社会貢献支援財団受賞式典から

先月11月30日、帝国ホテル東京にて表彰式典が開催されました。

今回の受賞に際しては、川田様から昨年8月に社会貢献支援賞の情報をいただき、法人として申請を行ったものでした。今年の1月24日に一次審査を通過した旨の連絡があり、9月7日に受賞の決定通知をいただきました。そして11月30日の式典の案内を受けていました。

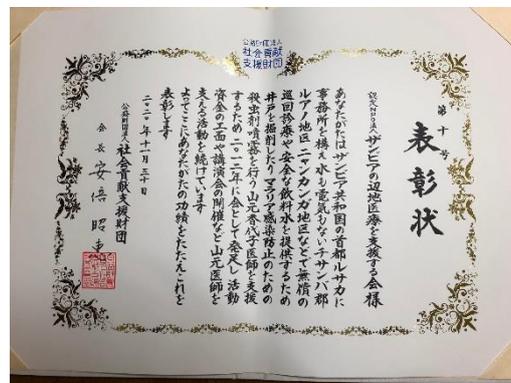
ただ、ちょうど新型コロナウイルス感染症の感染拡大が認められる時期となり、私日高も勤務先の状況から出席できず、当法人の理事が代理で出席する予定でしたが、その理事も地域医療で頑張っていることもあり、感染リスク等を考慮し、残念ながら欠席とさせていただきました。

今回の受賞式典には全国から40組の方々が参加される予定となっており、それぞれのお立場で活躍、ご苦労されているお話をお互いにお聞きし、意見交換できる機会ではありましたが、本当に残念でした。

それでも、当法人の活動をこのような形で認めていただいたことは本当にありがたく感じております。それと共に、これまでの活動をご支援いただいた多くの皆様のお力に重ねて感謝申し上げます。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、現地ザンビアでの活動もままならず、大変厳しい一年でしたが、今回の受賞はそんな中で数少ない嬉しい出来事でした。

重ねて心から感謝申し上げます。



ザンビアからの情報（山元香代子先生より）

みなさま、いかがおすごでしょうか。私は11月28日に関西空港に到着しました。

ザンビアでの3週間、最初に実施したのは、抗マラリア薬、マラリア検査キット、小児用抗生物質シロップ、眼軟膏などコミュニティヘルスワーカーが必要としている薬剤の調達、それぞれの地域への配布です。クワチャ安の影響で薬剤の値段が上がっています。特にマラリア検査キットは2倍になっていました。

それから帳簿の整理、領収書のインクが薄れて読みづらくなっていて困りました。両替店に両替した日の両替レートを問い合わせたりして、何とか帳簿を完成させました。昨年12月から今年3月まで15回の巡回診療が実施されています。それぞれの診療での患者の診断名・処方された薬剤の記録が残されていますので、それを基にして、受診者数、マラリア検査の陽性率、それぞれの診断毎の患者数、妊婦健診・家族計画受診者数などを記載したレポートの作成を行いました。診断名や薬剤の使い方に疑問を持った症例についてはそれぞれ準医師にコメントを残しました。この間、運転手の都合がつけば銀行に行き、5000ドルずつ引き出しました。銀行は店内に入る人数を制限し、店外にはいつも長蛇の列で、いつも30分から1時間近く待たされました。

また、ザンビアでは1年に1回医師免許の更新が必要です。今年からセミナー出席などでポイントが付与され合計100ポイントないと更新ができないとのことでした。関係省庁に新型コロナのためザンビアに戻れず、100ポイント獲得はむずかしい旨を手紙で伝えましたが、返事はなく、もう医師としてはやっていけないと途方にくれました。しかし、博士号の証明書があれば100ポイント獲得できるとの記載に気づき、自治医大にメールして早速英文の証明書を送付していただきました。そして、5000クワチャ（約26,000円）の年会費を払い、医師免許の更新が可能になりました。自治医大の関係者の皆様には心からお礼申し上げます。

ORMZはザンビアでNGOに登録していますが、5年ごとに更新が必要です。その手続きのために何度も関係省庁に足を運び、書類を揃えました。しかし、群保健局からの推薦状がなかなかもらえず、あせってしまいましたが、とりあえず郡保健局への推薦状依頼の手紙を添付すればよいとのこと、なんとか更新ができそうです。

このように毎日、ばたばたと仕事を片付けていましたが、コミュニティヘルスワーカーから血圧やてんかんの薬が手に入らず困っている人がいるとの連絡を受けました。ザンビアではCovid19の感染者は1日50人以下で、街中では銀行やショッピングモールを除いてマスクを着けている人はほとんどおらず、ミニバスもマスクを着けていない人で混雑しています。バスやミニバスを使って地方からの人々の行き来も盛んです。その状況を考慮して、十分な注意をしながら、ルアノとニャンカンガの2か所で月1回ずつの巡回診療を再開することにしました。

そのため薬剤や器材の購入、車両の整備などが必要でした。どうしても手に入らない薬剤があり、運転手と手分けして多くの薬店を回り、何とか必要量の薬剤などを揃えることができました。

以前のように長くはありませんが、数時間から半日の停電が毎日あり、停電になるとポンプも止まってしまう水も出なくなることもありました。パソコンの充電もできず、プリンターは使えず、太陽光充電のランプでは夜ほとんど仕事ができず、困ってしまいましたが、何とか3週間弱で予定していた仕事を終えることができました。現地スタッフにとっても助けられました。

帰国する前に私立の病院でPCR検査を受け、翌日州保健局の旅行証明書とともに陰性の結果を受け取りました。2500 クワチャ（約 13,000 円）かかりました。11 月 27 日ザンビアルサカ発の飛行機は 8 割程度の混み具合、ドバイから関西空港の便は 3~4 割ぐらいの混み具合でした。関西空港に着くと順番におろされて、PCR 検査を受けました。今回は鼻からではなく唾液を使っての検査でした。関空に着いて 2 時間ぐらいで検査結果もでて、空港から出ることができました。空港近くのホテルに泊まり、翌日レンタカーを使い（公共交通機関の使用は禁じられているので）、12 時間かけて宮崎に戻りました。そして 2 週間、自宅待機となりました。

日本では Covid19 の感染者が増えていて、たいへんな状況です。みなさま、どうぞくれぐれもお気をつけください。来年がみなさまにとって良い 1 年となりますように、心からお祈り申し上げます。

多くのご支援、ほんとうにありがとうございました。

ザンビアでの新型コロナウイルス感染症の状況

*以下のような状況です。

- ・ 12 月 18 日時点の情報： 感染者 18,322 人 死亡者 367 人
- ・ 11 月 20 日時点の情報： 感染者 16,697 人 死亡者 350 人
- ・ 10 月 16 日時点の情報： 感染者 15,616 人 死亡者 344 人
- ・ 9 月 23 日時点の情報： 感染者 13,819 人 死亡者 324 人
- ・ 9 月 4 日時点の情報： 感染者 12,381 人 死亡者 290 人

在ザンビア日本大使館情報（大使館ホームページから引用 12 月 18 日付け）

◎ルアプラ州サンフィア郡コミュニティ共同トイレ建設計画」の引渡式

12 月 10 日、平成 30 年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「ルアプラ州サンフィア郡コミュニティ共同トイレ建設計画」の引渡式が執り行われ、杉浦俊男臨時代理大使、アントニー・カサバ・ムチェングワ司祭、クンダ・チパロ郡保健局環境衛生担当官、ゲートルード・チャブ・ムワバ小学校校長（郡教育局局長代理）、ジョージ・チンガンドウ・トゥワシュカクラブ会長をはじめ約 50 名が出席しました。



トゥワシュカクラブは 2013 年の設立以降、同地域において公衆衛生及び健康促進のための啓発活動や人材育成活動等を実施しています。しかし、同地域ではトイレ等の適切な衛生施設が不足していることから、屋外排泄によって地下水や農地が汚染され、下痢やコレラ等の水因性疾病が多発していました。

団体からの支援要請を受け、日本政府は 27 基のトイレ棟建設のための資金 50,973 米ドルを供与しました。事業が完了したことにより、地域住民約 8,000 人が適切な衛生施設へのアクセスが可能となり、衛生環境の改善により、水因性疾病の減少等人々の健康に寄与することが期待されます。



式典において杉浦臨時代理大使は、コミュニティによって建設されたトイレが適切に活用、維持管理されることを期待する旨述べました。

